

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	障がい福祉課	
施策	5	障がい者福祉の充実	評価 責任者	野中 隆	内線 2510
小施策	5-1	障がい者への理解と交流の促進	評価 シート 作成者	大森 勉	内線 2511

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
障がいのある人もない人も地域の中で自立した社会生活を送ることができるような条件を整え、共に生きる社会の実現が求められている。		市民一人ひとりが障がいや障がい者に対して十分な理解をし、配慮していくための啓発広報を行うなど、障がい者が地域の一員として安心して生活でき、誰もが暮らしやすいまちづくりを進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		理解と交流が図られている。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価																									
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成 果 の 要 因 分 析																								
まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合	人	↗	・市障がい者芸術文化祭への入場者数、選品数ともに減少したが、発表する機会の少ない作品を多くの人に観ていただく機会となった。 入場者数:平成30年度194人→令和元年度134人 出点数:30年度106点→元年度76点	⇒	・市芸術文化祭の他に、県文化芸術祭、いわてきららアートコレクション、施設主催の企画展等の発表機会が増え、障がい者の文化活動への参加も積極的になっている。																								
当初値 (H25)	42.0	R1目標値	51.0	⇒	問題の要因分析																								
		R6目標値	60.0																										
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (達成率)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>達成率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>42.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>41.5</td></tr> <tr><td>H28</td><td>39.7</td></tr> <tr><td>H29</td><td>42.1</td></tr> <tr><td>H30</td><td>41.8</td></tr> <tr><td>R1</td><td>40.7</td></tr> <tr><td>R2</td><td>-</td></tr> <tr><td>R3</td><td>-</td></tr> <tr><td>R4</td><td>-</td></tr> <tr><td>R5</td><td>-</td></tr> <tr><td>R6</td><td>-</td></tr> </tbody> </table>			年度	達成率 (%)	当初値 (H25)	42.0	H27	41.5	H28	39.7	H29	42.1	H30	41.8	R1	40.7	R2	-	R3	-	R4	-	R5	-	R6	-	・市障がい者スポーツ大会に参加する高校生等のボランティアが減少した。 平成30年度118人→令和元年度68人		
年度	達成率 (%)																												
当初値 (H25)	42.0																												
H27	41.5																												
H28	39.7																												
H29	42.1																												
H30	41.8																												
R1	40.7																												
R2	-																												
R3	-																												
R4	-																												
R5	-																												
R6	-																												
			・まちづくり評価アンケート調査「障がいや障がい者について知っている」と答えた市民の割合は40.7%となり、微減となっている。																										
			・東京オリンピック・パラリンピック関連のCMやアニメ等による宣伝効果で上昇が期待できたが、特に精神障害者や透析を受けている内部がいは、身近にいても障がい者と認知されず、障がい者と意識してふれあう機会が少ないことが要因と考えられる。																										

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★ 障がいや障がい者に対する市民の理解が得られるよう、障がい者スポーツ大会、障がい者芸術文化祭や各種イベントの開催に協力し、市民との交流を進めるほか、障がい者差別解消法について引き続き周知を図る。	
★ 市庁舎内で毎週木曜日に実施している障がい者施設の販売実習である「ふれあい広場」は、施設で制作した商品等を販売し、市民との交流を深める目的もあることから、販売方法やPR方法について工夫等行えるよう実施施設と協議を行う。	